

安全対策／踏切

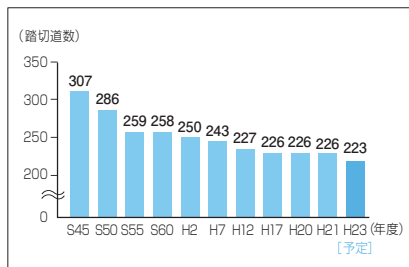
踏切の解消

踏切における根本的な安全対策は立体交差化により踏切を解消することです。当社では、立体交差化を積極的に行い、踏切の解消に努めています。

昭和45年に307カ所あった踏切は現在では226カ所まで減少しています。近年では、平成11年11月に京阪本線(寝屋川市内)連続立体交差化事業により寝屋川市駅付近を高架化しました。現在は、京阪本線淀駅付近の立体交差化事業を進めています。これは、京都市の都市計画事業として、京都競馬場の最寄り駅である淀駅を中心に京阪本線約1.5kmを高架化する事業で、平成25年度の竣工を目指しています。

この高架化により3つの踏切道を廃止し、利便性向上、安全確保とともに、競馬開催日の混雑を解消します。新駅は現在の位置より約280m京都方面に移設し、2面4線のホームを持つ高架駅に生まれ変わります。

踏切道数の推移



踏切事故防止のための機器

● 踏切支障報知装置

踏切内にて列車を停止させなければならない事態が生じた場合、非常ボタンを押すことにより特殊信号発光機を点滅させて運転士に知らせるもので、京阪線の31カ所の踏切に設置し、事故を未然に防止しています。



踏切支障報知装置

● 踏切障害物検知装置

踏切警報機作動中に踏切内で障害物を検知すると、特殊信号発光機を点滅させて運転士に知らせるとともに、注意喚起の警告ブザーを鳴動させる装置です。現在では、京阪線96カ所、大津線40カ所の踏切に設置しています。



踏切障害物検知装置

● 列車進行方向指示器

踏切に設置している閃光灯や列車進行方向指示器をLED化することで、従来よりも遠方からの視認性を高めています。



列車進行方向指示器

踏切での啓発活動

踏切道を通行するドライバーや歩行者に、踏切道の無理な横断や自動車の無謀通行をしないよう啓発活動を行っています。

また、沿線の小学校に対しては、踏切事故に対する子どもたちへの教育指導もお願いしています。



踏切での啓発活動(大手筋踏切道)

TOPICS

淀駅付近立体交差化工事 下り線が高架化

平成21年9月12日、下り線(大阪方面行き)が高架線に切り替わりました。上り線の切り替えは平成23年度を目指しています。



工事の様子



高架化された下り線